

# ほしの 星野 たつこ 立子 (1903~1984)



俳人。東京府麹町区富士見町(現、東京都千代田区)出身。高濱虚子の次女。東京女子大学高等部を卒業、その翌年の大正14年に結婚し、「ホトトギス」発行所および文化学院に勤めた。俳句は、大正15(1926)年に父・虚子の勧めではじめ、中村汀女とともに女流俳人の双璧と言われ、また、女性が初めて主宰となった俳誌『玉藻』を創刊した。素朴な感受性で柔軟なリズムに乗せて詠う花鳥諷詠が特色であり、愛媛にもたびたび来県して俳句の指導にあたった。句集に『立子句集』、『笹目』など、随筆には『玉藻俳話』などがある。

## 略歴

- |                   |                              |
|-------------------|------------------------------|
| 明治36(1903)年11月15日 | 東京府麹町区富士見町に、高濱虚子の次女として生まれる。  |
| 大正13(1924)年3月     | 東京女子大学高等部卒業                  |
| 大正15(1926)年3月     | 父・虚子の勧めで俳句を作るようになる。          |
| 昭和5(1930)年6月      | 俳誌『玉藻』を創刊                    |
| 昭和7(1932)年        | 『ホトトギス』同人となる。                |
| 昭和12(1937)年11月    | 句集『立子句集』を刊行                  |
| 昭和18(1943)年12月    | 随筆『玉藻俳話』を刊行                  |
| 昭和22(1947)年4月     | 句集『中村汀女・星野立子互選句集』を刊行         |
| 昭和25(1950)年9月     | 句集『笹目』を刊行                    |
| 昭和34(1959)年4月     | 中村草田男、石田波郷とともに、「朝日俳壇」の選者となる。 |
| 昭和45(1970)年10月    | 脳血栓で倒れ、俳誌『玉藻』の主宰を妹の高木晴子に任せる。 |
| 昭和59(1984)年3月3日   | 直腸がんのため80歳で永眠                |

(写真提供：虚子記念文学館)

### 〈関連図書〉

- ・星野立子『露の世』 玉藻社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・山田みづえ『星野立子』 牧羊社 1992年
- ・星野立子『月を仰ぐ-星野立子句集』 ふらんす堂 1997年
- ・星野高士『星野立子』 蝸牛社 1998年
- ・星野立子『星野立子全集』 梅里書房 1998年～

〈主な収蔵資料〉…(P228, 146)

〈ゆかりのある場所〉…(P315, 208)

〈関連施設〉…鎌倉文学館

〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷1-5-3 TEL: 0467-23-3911